

バベルをはなれる ヤレドのたみ

だい50しょう



ヤレドとヤレドの兄弟は、正しい人で、バベルというところにすんでいました。ニーファイのたみのじだいよりも、何百年もむかしのことです。(エテル1：33；そうせい11：9)



バベルの人びとは、ほとんどがわるい人たちでした。人びとはとうをたてて、天にとどかせようとしたのです。主はおいかりになって、人びとのことばをかえられました。(そうせい11：4，7)



そこで、ヤレドはヤレドの兄弟に、「自分たちのかぞくと友だちのことばをかえないよう、主にいのつてくれ」と言いました。(エテル1：34)



ヤレドの兄弟がいのると、主はそのいのりを聞きとどけてくださいました。それでヤレドとヤレドの兄弟と、そのかぞくと友だちはおたがいのことをりかひすることができました。(エテル1：35-37)



主はヤレドの兄弟に、かぞくと友だちをあつめて、バベルをはなれるようにとおっしゃいました。かちくとあらゆるしゆるいのたねも、もって行くように言われました。(エテル1：41-42)



主は、ヤレドのたみをやくそくの地にみちびくと言われました。
(エテル1：42)



ヤレドのたみは、いっしょにつれて行く鳥と魚をつかまえました。
(エテル2：2)



みつばちのむれも、つれて行きました。(エテル2：3)



ヤレドのたみは、あれ野の中へすすんで行きました。主が雲の中
からお話しになり、行き先をしめしてくださいました。(エテル
2：5)



主は「やくそくの地にすむものは、神につかえなければ、ほろぼ
される」と言われました。(エテル2：7-8)



ヤレドのたみは、海べにやってくる、てんまくをはりました。
そして、海べで4年の間くらしました。(エテル2：13)